

第3回 蓄電池産業戦略検討官民協議会 議事要旨

日時：2022年3月28日

場所：オンライン会議

議事要旨

資料1～3、資料6につき、事務局より説明

資料4につき、一般社団法人 日本電機工業会より説明

資料5につき、KDDI 株式会社より説明

メンバーからの発言要旨は以下の通り。

1. 制度・ルール・標準化について

- ・日本がどの分野で規格を主導するかは、安全性の分野で差別化ができると期待。蓄電池の製造コストを下げることは重要だが、これだけで日本が巻き返していくのは厳しい。ライフサイクルの後ろ側の段階で差別化していくべき。(例：長寿命化、稼働後のオペレーション等)
- ・CFP 算出などサステナビリティの議論も日本がケーススタディを出して、主導権を取っていくことが必要。
- ・リユースは、具体的な二次利用先を想定し、製品保証も含めて、具体的なビジネススキームを想定したルール作りが必要。

2. 需要拡大・国際展開について

- ・国際展開について、これまで日本で製品を創出した後、海外に展開し、それが逆流してきた歴史。そのような考え方を改めて最初から世界市場を見据えるべき。今回の戦略は、今までと違う切り口が必要。
- ・定置用蓄電システムの潜在的な目標だけではなく、国が具体的な市場創出を進めていくべき。日本はメーカー任せ、生産設備に依存するため、中国や韓国のように国がしっかり補助金を出すメーカーに負けてしまう。
- ・日本がガラバゴス化しないようにしつつも、日本の電池の強みが生かす市場も重要。例えば、HVの導入も見込む米国やインドと連携することも大事。必ずしも、EV 一辺倒ではないシナリオも必要。

3. 戦略の基本的な考え方と検討の方向性について

- ・勝ち方の STEP として、車載でグローバル市場がどんどん進む中で、STEP1 (液系 LiB の生産基盤の確立) と STEP2 (グローバルプレゼンスの確保) は、同時に進める必要あり。
- ・性能面で勝っていることが武器になるためには、国際標準作りに関わっていくことが大事。スタンダードを進化させていくことが重要。また、STEP1 (液系 LiB の生産基盤の確立) で、国内生産基盤だけでなく、研究開発への支援も必要。
- ・定置用蓄電池は、海外の安いものが入ってくる中で、品質のトラブルがある。日本の定置用蓄電池市場は、大きなマーケットであるため、安全性に着眼して、日本国内に入ってくるための要件を作って提示することが必要。